

.....編集後記.....

◇今月号の特集「地震と地盤」の企画は、ロマブリータ地震の直後からスタートし、10カ月後の今月このような形で結実しました。ご協力頂いた皆様に、まず厚くお礼申し上げます。8月号にセットしたのは、執筆して下さる方々のご都合と9月1日の防災の日を考慮したからです。5月末の原稿締切日までには、ほとんど全ての原稿が揃い、6月には編集作業に着手することが出来ました。多忙なポジションにおられる執筆者が多かっただけに、企画・編集に当たった者として感謝の念に堪えません。

◇表紙とグラビアは、米国地質調査所 (U.S. Geological Survey) から提供された写真と資料をもとに構成しました。関係者に厚くお礼申し上げます。Menlo Parkの Dr. Gerald K. Czamanske, Dr. William J. Keith および Dr. John K. Nakata の3氏には特別にお世話になり、また当所の石原舜三所長には写真の入手に当たってご尽力頂きました。印刷までの時間的制約から、原稿作成とレイアウトを筆者が担当しました。

◇企画段階の人選や原稿依頼では、環境地質部前部長の小野晃司氏にもご協力頂きました。

◇紙数が限られていたため、執筆頂いた方にはご迷惑をおかけしました。関東地震70年目の1993年には、もっと余裕のある誌面で、同様の特集を組みたいと思います。

◇ロマブリータ地震による高速道路の崩壊現場では、車の後部座席にいて助かった赤ちゃんを救出するために、運転席で既に死亡していた親の遺体もろとも車体を切断しなければならず、救助隊員の中には精神に異常を来す者もあったという(ロマ・ブリータ地震東京都調査団報告書, 169頁)。同様の惨劇はこれまで数多く繰り返されてきた。これからも起こるであろう。自分自身が惨劇の当事者になる可能性だってある。これ

を書いている時、イランで何万人も死亡する地震が発生したというニュースが飛び込んで来た。建造物の耐震強度が異なるにしても、これらの地震災害は日本にとっても他人事ではない。

.....佐藤 記.....

地質ニュースに寄稿される方へ

1. 地球科学各分野の最近の話題・総説・解説など多方面の原稿を募ります。
2. 原稿は図・表・写真を含め、原則として刷上がり15ページ以内とします。これをこえる場合は事務局に相談して下さい。地質ニュース原稿用紙(25×18字)4枚半が1ページに相当します。
3. ワードプロセッサ使用の場合も、A4判用紙に1行25字とし、行数は20-25行程度として下さい。
4. 句読点・引用符などもすべて1字として下さい。
5. 図・表・写真は本文とは別に1枚1ページとして、それぞれに番号をつけるとともに、希望する掲載サイズを余白に記入して下さい。これらにつける説明文は、本文とは別の原稿用紙に書いて下さい。とくに図と写真は、縮小率を考え鮮明なものを提出して下さい。
6. 原稿の右欄外に図・表・写真の希望する挿入位置を鉛筆で記入して下さい。
7. 表紙やグラビアに用いるカラー写真は、プリント版の他に原版のポジ(スライド)を提出して下さい。プリント版のみの場合は、カビネ〜六切サイズのものに限りです。
8. 原稿は事務局に提出して下さい。編集委員会から受付カードを発行します。掲載は原則として受付順としますが、速報性の高いものは優先的に印刷したいと思います。

<地質ニュース編集委員会>

地質ニュース編集委員会

委員長: 小川克郎
副委員長: 佐藤興平・鈴木尉元
幹事: 黒田和男・尾上亨
委員: 三田直樹・岡村行信・三村弘二・笹田政克・佐藤岱生・小玉喜三郎・武居由之・山口靖湯浅真人

事務局: 総務部業務課広報係
〒305 つくば市東1-1-3 地質調査所
地質ニュース編集委員会
事務局 Tel. 0298-54-3520
Fax. 0298-54-3533

地質ニュース	第432号 1990年8月号
	定価 ¥700 千 美費
1990年8月1日 発行	
編集	工業技術院地質調査所
発行人	林久雄
発行所	株式会社実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12
	〒102
	Tel. (03)265-0951 (代表)
	振替口座 東京1-32466
	麹町局私書箱第21号
総発売元	株式会社実業公報社

©1990 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都中央区榊八重州ブックセンター本店とつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。